

田中二郎 著

## ブッシュマン、永遠に。

—変容を迫られるアフリカの狩  
猟採集民—



昭和堂  
2008年 240ページ  
2300円+税

私がアフリカ地域研究の門を叩いた一年後、著者は京都大学を定年退官された。本書は、1967年9月に、南部アフリカ、ボツワナ共和国での著者とブッシュマンの出会い以来、40年もの間、彼らと向き合ってきた著者の研究人生をつづったものである。

1970年代当時、ブッシュマンは動物の皮をまとい、原野で獲物を追い、野生植物を採集しながら、遊動生活を営んでいた。著者が「砂漠の狩人」と表した彼らの生き方に、本の中でしか出会うことができない私は、これまでに何度も、著者をはじめとする先人たちをうらやましく思ったものだ。しかし、ブッシュマン研究のパイオニアである著者は、後に「砂漠の狩人」の世界に開発政策が押し寄せ、彼らの生活がどんどん変貌していく様と向き合うことになる。

本書は全7章からなり、第1章はコイサン人の歴史について、関連諸分野の研究においてこれまでに明らかになってきたことを簡潔にまとめてある。第2章は、主に1970年代の調査資料をもとに、ブッシュマンの狩猟採集生活を描いており、読者は「砂漠の狩人」の姿を生き生きとイメージできるだろう。第3章以降は、著者が、1980年におこなった4度目の調査行以降についてまとめられている。ブッシュマンの生活が加速度的に変容していく様子を時系列にそって丁寧記している。また、この章から、著者の後に続いたブッシュマン研究者が登場する。彼らの研究の視点やその成果、そして、当時のブッシュマンの生活の実態について、数多くの日本人によるブッシュマン研究が紹介されている。読者は、1967年から今日にいたるまで、途切れることなく続いてきた日本人によるブッシュマン研究の層の厚さを再認識することになるだろう。

本書後半では、ブッシュマンは、定住化政策により遊動生活を断念せざるをえなくなり、読者は彼らの一変した生活を目の当たりにすることになる。1997年には、ボツワナ政府は、ブッシュマンが住み続けてきたリザーブから彼らを立ち退かせ、新たに設けた居住地へ強制移住させる暴挙にでた。さっそうと荒野を歩きまわっていた著者の旧友であるノアアヤも、多額の保証金と移住手当を受けとることを選び、新居住地へ移住した。しかし、この大金がその後のノアアヤの生活を一変させる。新居住地では、受け取った金で酒を飲む機会が増え、彼はついには肝臓を壊し、それがもと

で帰らぬ人となってしまった。著者は、定住化政策の実施を、ブッシュマンのこれまでの暮らしを真っ向から否定し、未知の文明を急激に押しつける生身の実験であったと指摘する。ノアアヤの晩年は、まさに、この実験が如何に彼らの社会を混沌とさせたかを示している。

「客観的になりゆきを観察する冷ややかな目を持ちながら、みずからもその社会にコミットしてゆかざるをえない状況があり、それをなすことはこの社会にかかわってきた研究者の、人間としての責任でもあろうかと思う」(159ページ)。定住化と開発によって、著者は、すっかり変わり果てた配給漬けの生活を送る旧友たちに再会し、ひとりの研究者として客観的になりゆきを観察せねばという思いと、ひとりの人間として友人たちの生活を憂える気持ちの両方を抱えるようになる。ブッシュマンのような劇的な社会変化ではないとしても、自分の調査地の人びとと向き合ったことのある研究者は、一度は抱いたことのある悩みではないだろうか。変化の速度が急激であるほど、「客観的になりゆきを観察する」必要性を強く感じ、対象社会との付き合いが密であるほど、「人間としての責任」を痛切に感じる気持ちが大きくなる。

劇的な変化を遂げながら、それでもたくましく生きるブッシュマンに期待と希望を込めて、著者は次のように最後を締めくくっている。「彼らがこれから後もお、彼らなりの流儀で、したたかに適応を遂げつつ、21世紀のブッシュマン世界を構築していくに違いないと、私は思うのである」(216ページ)。

2006年にボツワナ高等裁判所は、政府がリザーブの住民(=ブッシュマン)を本来の彼らの居住地から移住させ、再びリザーブへ立ち戻ることを禁じていることについて、憲法違反であると判決を下した。翌2007年には、国連総会において「先住民族の権利に関する宣言」が採択された。これらの判決や宣言は、ブッシュマンの先住民としての権利を守り、彼らが主体的な意思のもとで生活を営める社会的状況を創り出せる「明るい未来」を期待させる。しかし明るく見える彼らの未来が、現実に明るいものとして歩き出すには、まだまだ時間が必要かもしれない。ブッシュマン流の「明るい未来」が、彼らの手によって築かれることを、願ってやまない。

(八塚春名/京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)